

歴史的資産を生かし 観光を商店街振興に結び付けたい

中部経済産業局長の高橋淳さんが、着任してから半年が経過した。街歩きが好き、という言葉通り、趣味と仕事を兼ね精力的に管内（東海3県に石川、富山県）を歩く。「歴史資産を観光に結び付けるさらなる工夫を」とのアドバイスは現場感覚から生まれた。耳を傾けたい。（聞き手、中部財界フォーラム社代表取締役 塚本隆）

——最近の管内の景気動向についてご説明ください。

高橋 各地の経産局長と情報交換していますと、ちょっと弱含みにいったのかな、あるいはぎりぎりのライン上かな、どちらだろうという状況ですね。これに対して当地域は、総じていえば力強さを保っているかなというのが率直な印象です。1月から3月にかけて高い水準の生産計画を発表された自動車産業に支えられ、裾野の各企業が力強く動いておられるのが大きい。昨夏から秋に比べると徐々に下がっているのは確かだと思いますが、まだ「弱い」という事態にはなっていないと見ています。細かく見ると、輸送用機械が自動車中心に強い半面、電子部品関係の液晶、メモリでは中国でのスマホの変調を原因に厳しい状況です。工作機械も受注だけ見ると少し厳しいのですが、去年の受注残があり生産ライン自体は高い水準で動いています。米中交渉がどう着地して中国の経済がどのあたりで回復基調に入るかと注目していますが、今ぐらいならまだ大丈夫だとみています。この交渉が一息つき中国経済の先行きが見えるようになれば明るい展望もでてくるかな、と思います。

——前回の取材（新年号参照）で、名古屋赴任は初めて、とうかがいました。流通政策のご経験もあって「街歩き」も好きだと。管内各地も視察されているようですね。

高橋 まだ半年ですが、各地の中心市街地をあちこち見えています。中小企業庁では「はばたく商店街30選」（注1）を発表して、やる気のある商店街を支援、ホームページでもご紹介しています。しかしながら、実際に行ってみると必ずしもにぎわいという点ではどうかな、結び付いていないのでは、というところがあります。一生懸命いろんな取り組みをされている商店街がいくつもあるのは確かで一時的な効果を生んでいるかもしれませんが、でも、持続的な取り組みという点では集客に結び付いていないのではという気がします。商店街振興会だけでなく地域を挙げて自治体などを巻き込んで、観光と商店街をどう結び付けるかということを考えていけばよいのではないのでしょうか。

——観光に目を向けて、というご提案は非常に大事な点だと思います。

高橋 こちらの皆さんは、歴史に紐付けていろんなことを語られるわけですね。日常会話の中で300年、400年を遡れる。歴史的資産がいっぱいある地域だからですが、それをもっとアピールし、魅力発信することですね。名古屋市が中心となって、売れるものをもっと売ってほしいと思うのです。パッケージ化、ストーリー化して売るという努力があまりにもなされてこなかったのではないのでしょうか。東海地域を引っ張っているのは名古屋なのですから、名古屋が「うちは魅力ある街だ」「魅力度ランクでも上位に行